



昨年5月19日、新聞紙上で紹介された緑のふるさと協力隊・千葉遥加さん。「大自然の中で、自分の進路や将来についてゆっくりと考えたいと思う。毎月1回連載する広報紙のコラムも楽しみ」と語っている。

初めて訪れた新緑が映える町
4月中旬、大井川鐵道に揺られて、わたしはこの町を訪れました。周りを見渡せば広がる山々、大井川、もえぎ色の茶畑……。それまで住んでいた柏市とはまったく違う景色でした。すべてが新鮮に感じられました。

来町して初めての週末、川根温泉で開かれた「川根茶の日」記念イベントに参加しました。わたしはこのイベントで、茶娘に扮してお茶の接待をしました。テレビでしか見たことのない「茶娘」にな

れるなんて。生まれて初めて、わたしが新聞に載ったのも、このイベントの記事でした。「今日の新聞に、はるかちゃんに載ってたね」と声をかけられたときは、うれしいやら、恥ずかしいやら、照れくさいやら……。
新茶時期の本町。1年で一番活気ある季節です。わたしもこの町の一人として、忙しい日々が続きました。

6月に入ると、ふるさと協力隊の活動にも幅が出てきました。特に、子育て支援や乳幼児検診のお手伝いは楽しかった活動の一つです。子育て支援のお手伝いは、11

この時期は、ほとんど地名にある共同茶工場「かわね山処苑」さんのお手伝いをしていました。お茶に関する道具や機械など、初めて見るものばかりです。大量の生葉相手の荷受けや袋持ちなど、体力勝負が続きました。5月から6月ごろの自分の写真を見ると、骨が浮いているのがはっきりと分かります。これを毎年やっている、この町の人は本場にすごい。あらためてそう思います。いろんな壁にぶつかり始めたのも、このころだったように思います。

祭りが聞こえる
7月の下旬ごろから、「徳山の盆踊（祭典・8月15日）」の練習に参加しました。わたしは、小・中学

役場の保健師さんや栄養士さんは、町内の赤ちゃんのことを、「どこに住んでる誰の何番目の子ども」というようにしっかりと把握しています。こまめに実施されている家庭訪問などにより、温かく子どもたちを見守ることができています。そんなところも、この町ならではの「すぐくすきなところ」だと思いました。

「いつも読んでるよ」という声が
本当にうれしかったことを覚えています

千葉県柏市から
緑のふるさと協力隊隊員
として派遣され、
1年間、川根本町で暮らした
千葉遥加さん
川の水がぬるみ、木々の花が
ほころび始めるこの町で、
ふたたび同じ季節を迎えた
彼女の胸に、
今、去来するものは…
遥加さん自身がこの1年をふり返り
明日へと思いを馳せる
風ノハルカ【最終話】
遥加さんがあなたに宛てた、
1通のラブ・レター

風ノハルカ 最終話 ラブ・レター
LoveLetter